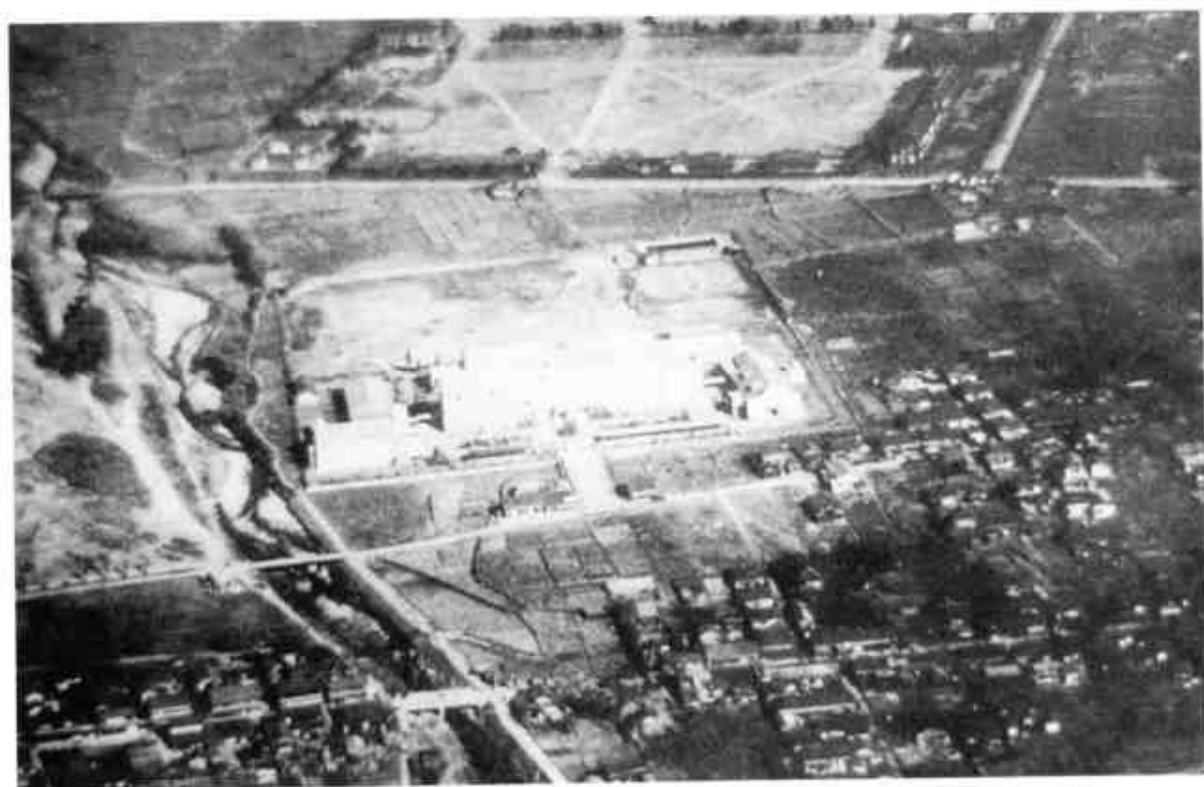




甲府第49連隊の兵舎と練兵場へ渡る竜雲橋

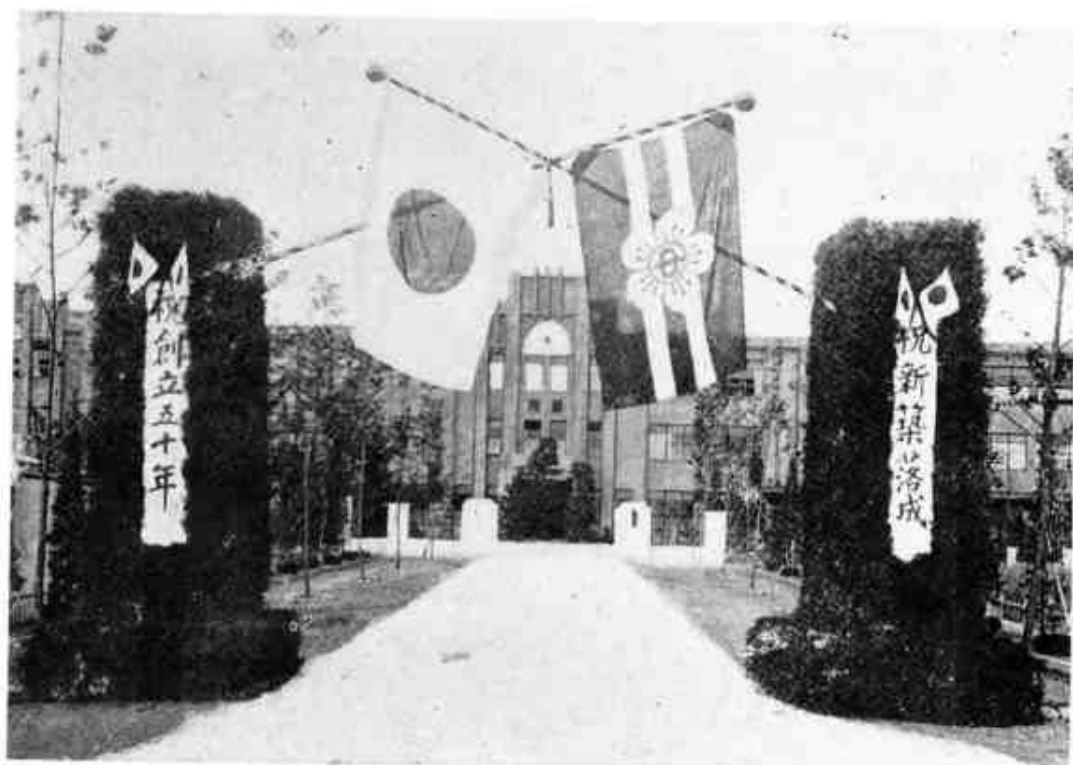


相川を境に西に広がる練兵場のくぬぎ林



昭和初期の学校周辺、中央が甲府中学校、上方が甲府49連隊の営庭

創立50周年
記念
(昭和5年)



創立50周年、校舎新築落成記念の校門前のアーチ



記念絵はがき、上から校舎全景、玄関、講堂内部



絵はがきケース



創立50周年記念展覧会場



創立50周年記念絵画展

甲中軍晴て甲子園へ



甲中晴勝の勝利の瞬間に大観衆の熱狂

甲中 030020000
神工 100003000
4 5

5-4

殊勲五味の健闘

五回二點勝敗を決す

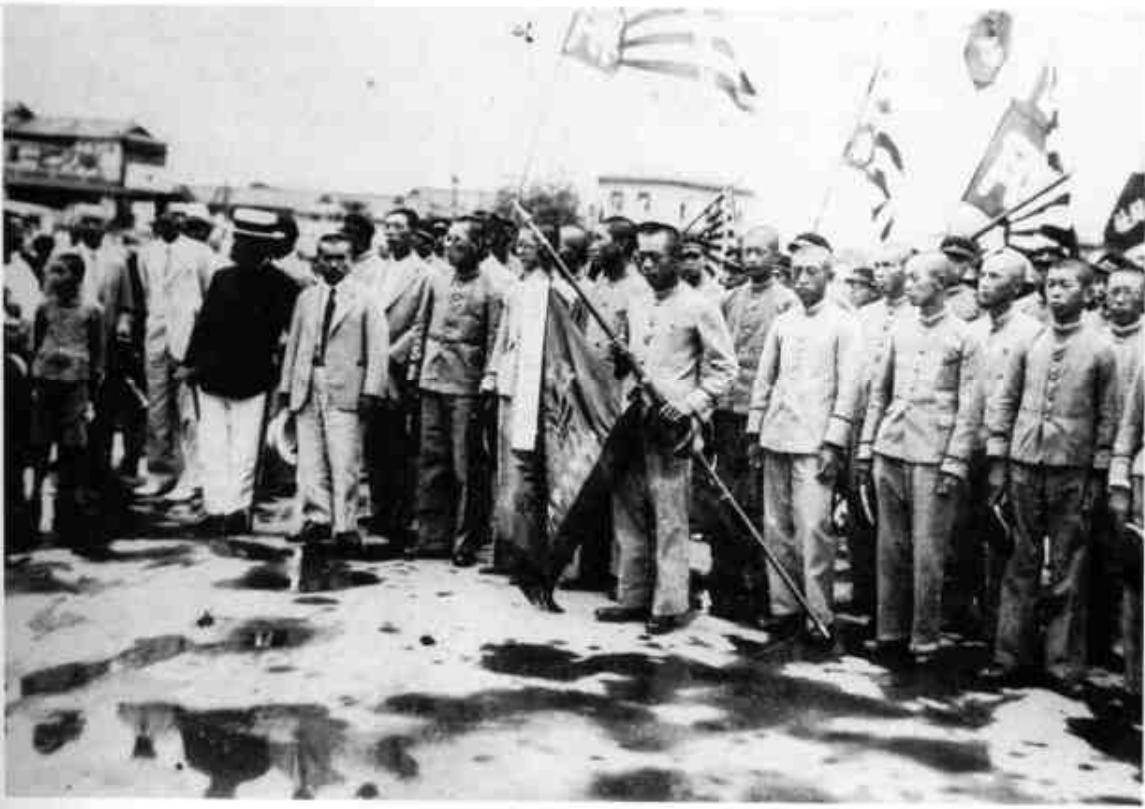
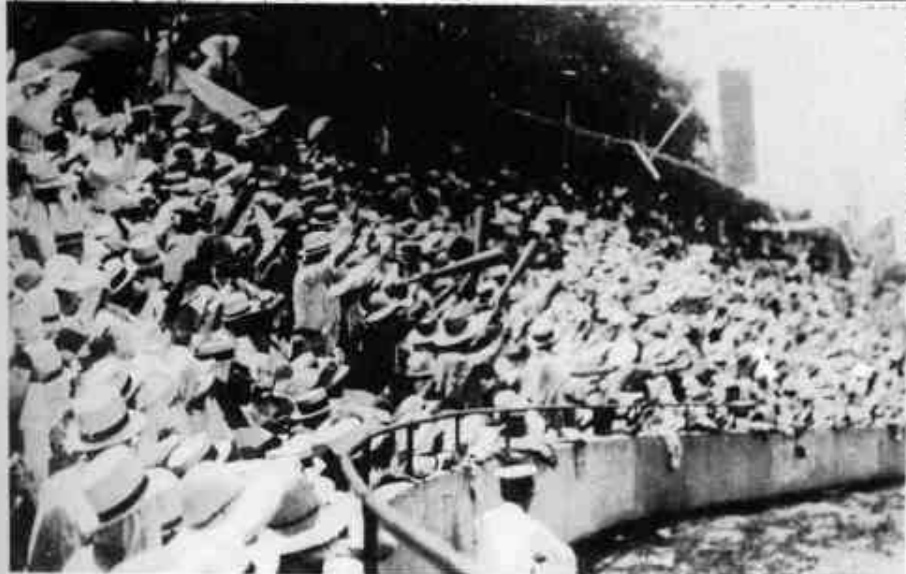
強剛神工を抑へ
三縣の制覇成る

球場に爆発した狂喜亂舞

中校連昇十九年の宿望達成

五味の好
奥村の

昭和10年8月4日、山・神・
静ブロック大会で甲中優勝。
甲子園初出場に観衆は興奮。
(甲府飯田球場)



甲子園へ向け、甲府駅頭の壮行会

56

創立60周年記念（昭和15年）



物故者慰霊祭



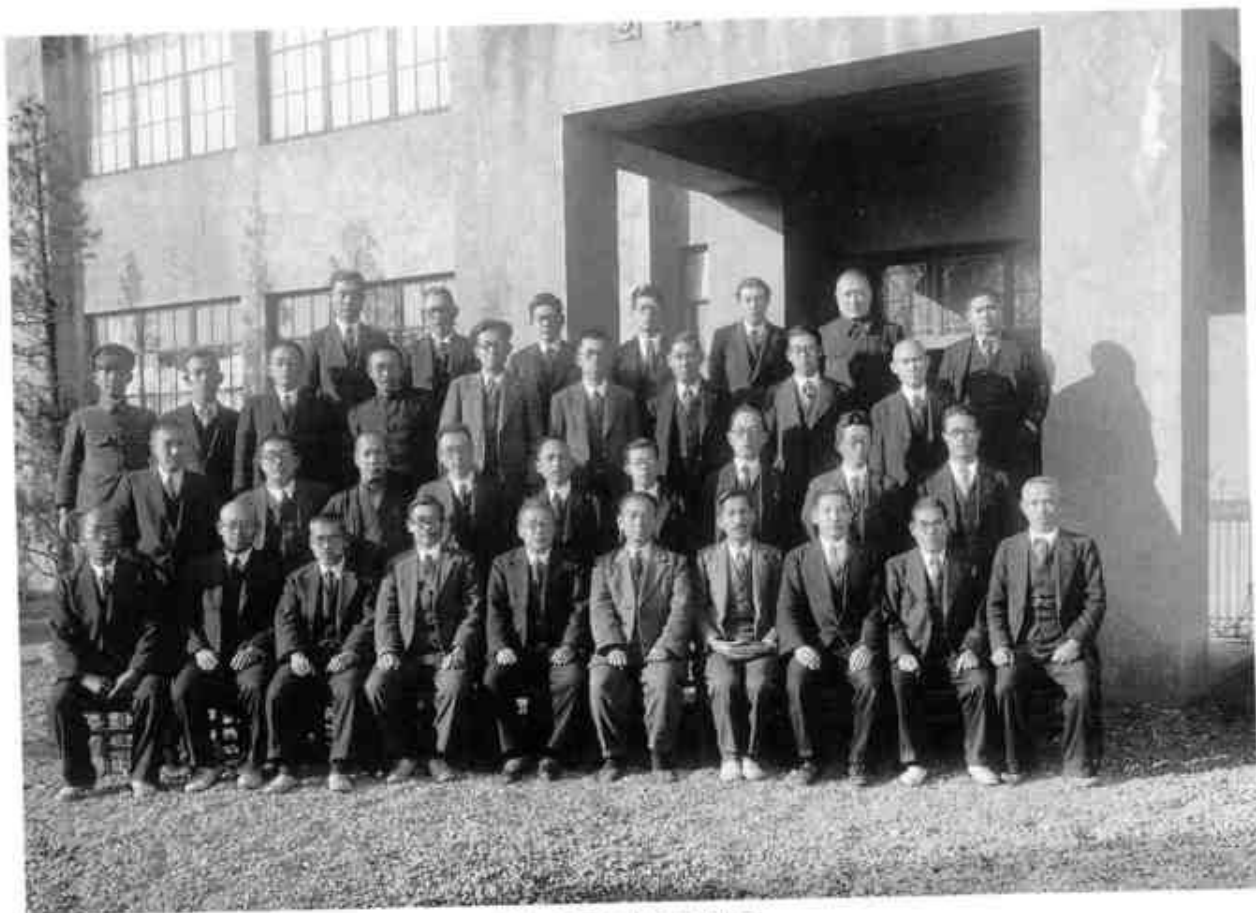
記念誌表紙



田辺治通元通信大臣(左)と幣原坦元校長の墨跡



記念手拭図案展覧会



創立60周年当時の職員



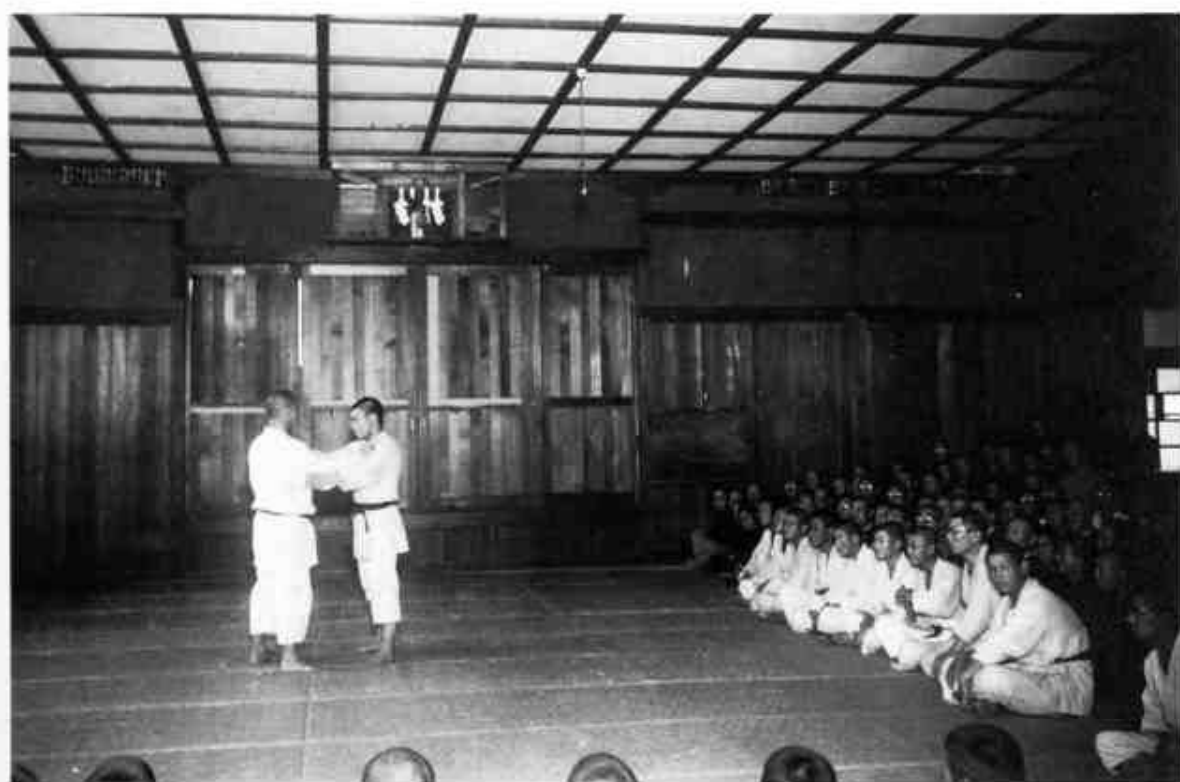
記念講演・田辺治通氏



大野芳麿校長の式辞



記念絵画展



寒稽古の試合風景、上剣道、下柔道



各種記念パッチ



戦時中使用した教科書



甲中だよりと同窓会報



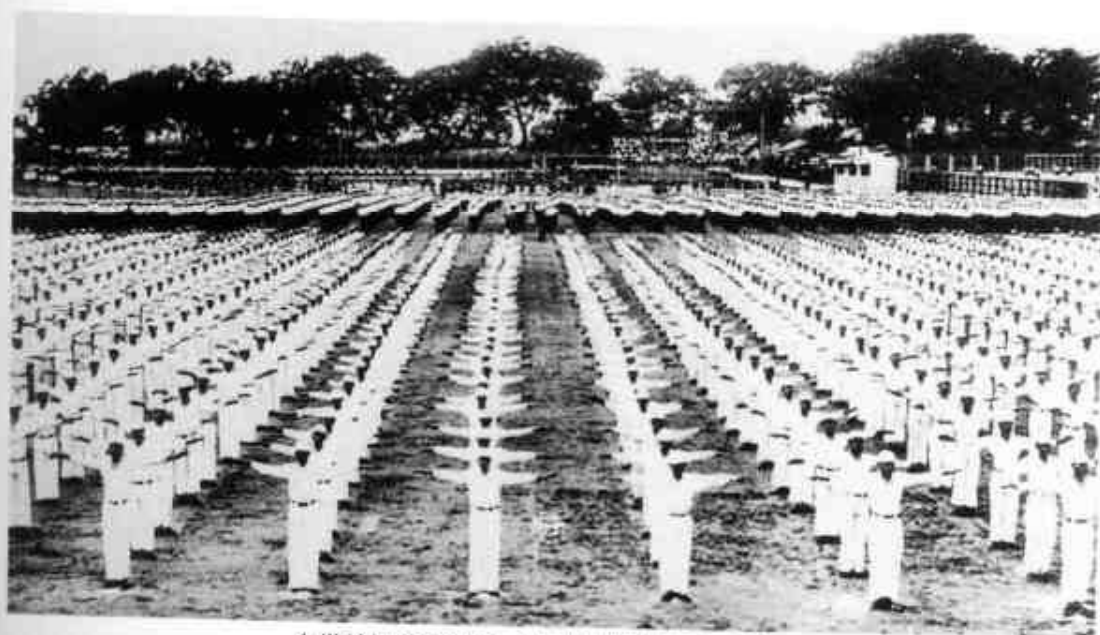
校友会雑誌



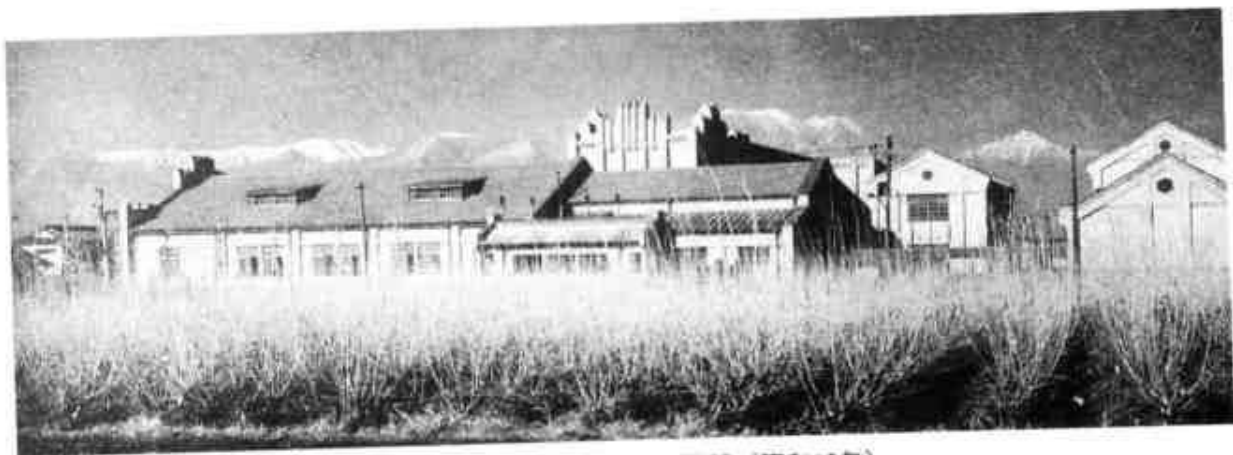
昭和12年、日中戦争が始まり、県庁前広場で、市内中学生による国民精神総動員強調行進が行われた



剣道の野試合



中学校連合運動会（飯田・県営グラウンド）



学校北の桑畑からの校舎眺望（昭和12年）



運動会の依引き競走



バレー部の練習（昭和15年）



化学実験授業（昭和15年）



正課である教練の分列行進



管内宿泊風景



野外教練

学徒動員



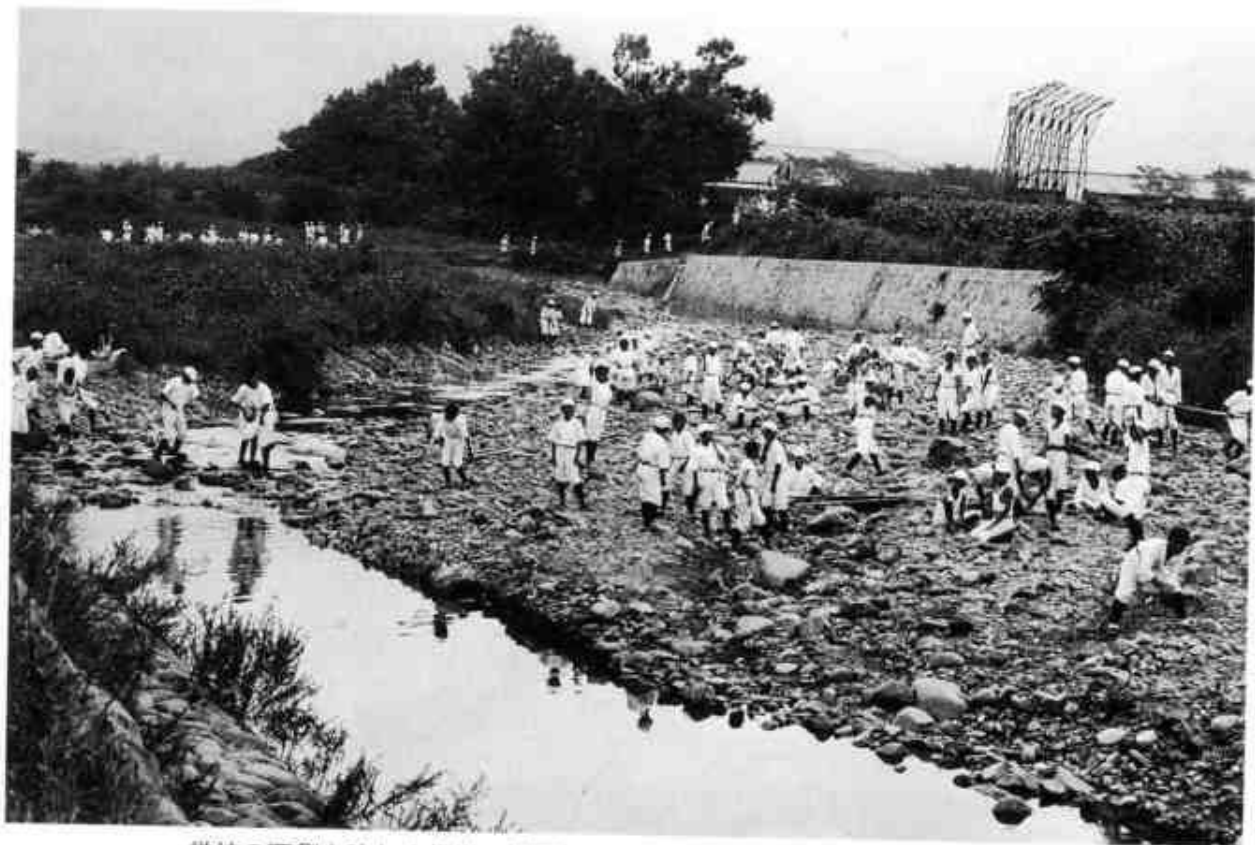
営内宿泊の記念撮影（昭和17年）



グライダー練習（昭和19年）



予科練入隊の壮行会（昭和19年）



学校の西側を流れる相川の河原で玉石拾いに励む生徒たち(昭和19年ころ)



校庭整備の勤労奉仕に精を出す生徒たち(昭和19年ころ)



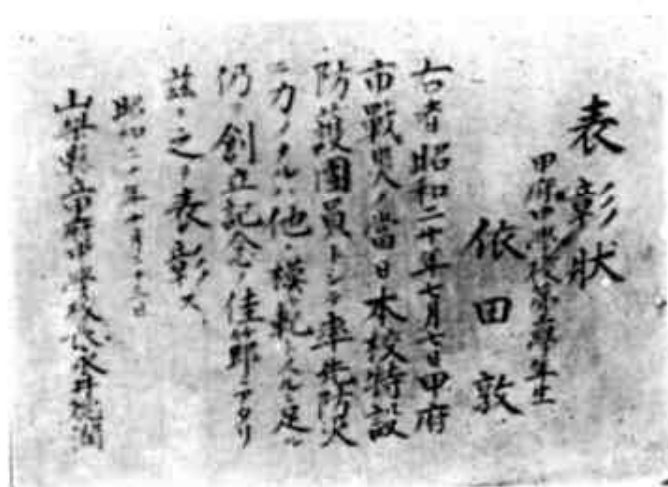
大学受験のため動員先から帰宅した生徒が同僚にあてた激励文と、奈良海軍分遣隊の同僚への書簡



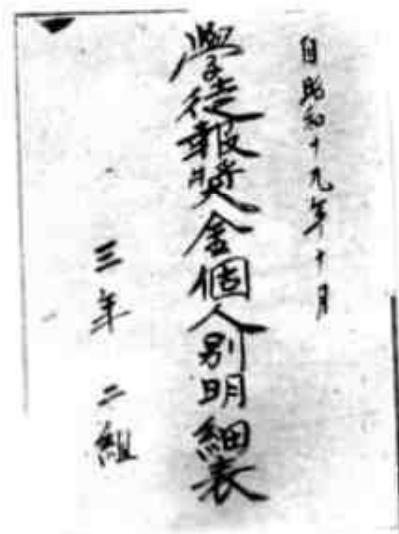
航空兵器総局長官が動員学徒に贈った
「神風」の鉢まき



岳麓旅行、河口湖で



昭和20年の空襲で、防火に活躍した依田敦が
表彰された



勤労働員先の帳簿

甲府大空襲、そして終戦



昭和20年7月7日の甲府大空襲でガレキと化した甲府駅前



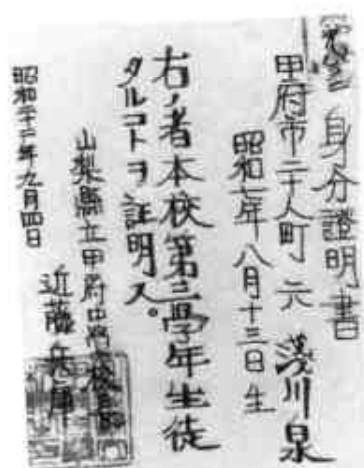
焼け跡に集う生徒たち（昭和20年、甲府駅前）



終戦直後の教科書（昭和21年）



中等学校野球春季大会で優勝した甲中ナイン（昭和21年）



生徒身分証明書



校庭で野球練習（昭和21年）



総合選抜の合格者発表

昭和23年4月、学制改革により本校は普通科課程の新制高校となり、山梨県立甲府第一高等学校と校名を改め、併設中学校と、高等学校通信教育、同普通科定時制（夜間・男女共学）を設置、同年7月、甲府女子高校に普通科分校（夜間）を併設し、同年10月この女子分校を甲府市に移管した。

昭和24年3月、併設中学校を廃し、さらに同25年4月、学区制設定で通学区域が決定され、また、はじめて男女共学が実施された。この年、木造2階建の特別教室6教室、準備室2教室が増築された。

昭和35年10月、創立80周年を迎えて盛大な記念式典が挙行され、その記念事業として、『八十年の歩み』が刊行された。また、戦災で焼失した校舎その他の諸施設も再建され、同30年以降には、体育館・図書館・化学特別教室・定時制給食室・日新ホールなどを新築、武道場の移転と増改築も行われた。

昭和36年、西関東大会で優勝を果たした野球部は、2度目の甲子園出場への切符を手にし、松山商業との対戦で、マンモススタンドの観衆をわかせた。

昭和43年3月、本校と甲府南高等学校間の総合選抜制度が実施され、本校の全日制1年の定員は480名となった。同年、野球部は、夏期大会で吉田高校を破り、3度目の甲子園出

場を果たした。

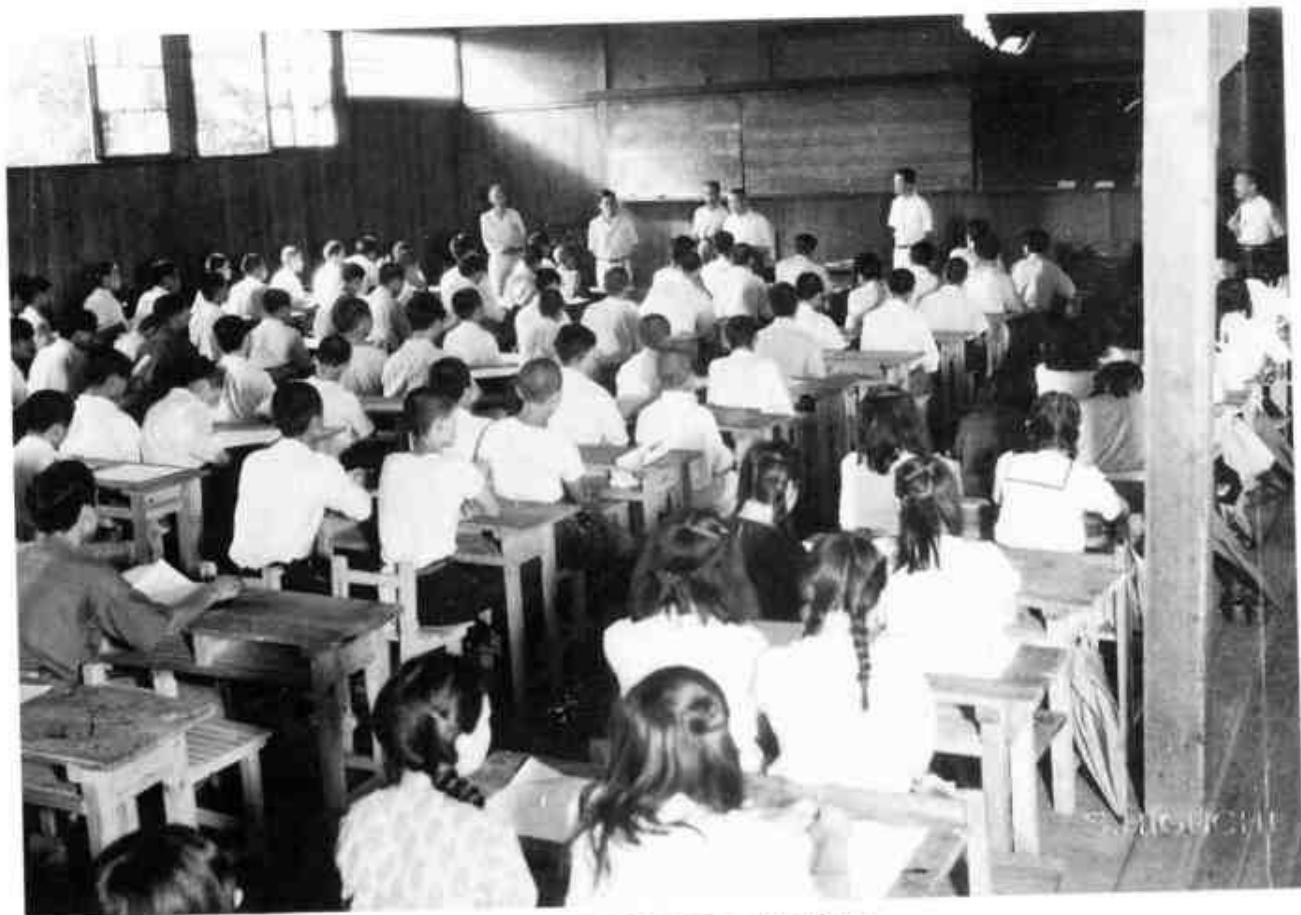
昭和45年4月、定時制1年の募集を停止。通信制2・3・4年生は、中央高等学校で授業をうけることになった。同年10月、創立90周年を迎え記念式典が行われ、同年12月21日、新校舎の上棟式が行われた。

昭和47年10月、鉄筋コンクリート造り4階建て北館が完成し、その竣工式が行われた。

昭和50年3月、甲府第二高等学校を加えた総合選抜制度が実施され、さらに52年には、甲府東高等学校が加わり、4校の総合選抜制度が実施された。その間、定時制・通信制両課程は完全に中央高校に移管された。（昭和49年）

昭和55年10月、創立以来一世紀を迎えた本校は、10月22日、創立百周年記念式典を盛大に行った。その記念事業として「百周年記念館」を、同窓会を主体として建設することに決め、翌56年5月23日、同館が竣工した。

甲府第一高等学校となってからの歴代校長は、近藤兵庫、篠原寛二、雨宮重治、斉藤俊章、廣瀬勝雄、高遠啓一、根津修蔵、若林勇、山下穆、岩波政雄の諸先生であった。また、創立以来の歴代同窓会長は山本保、松谷緑郎、深沢謙一、深沢平重、島田盛平、飯島豊甫、新海栄治、芦沢留次郎、小野熊平、寺田七男、矢崎茂三郎、清水八束の諸氏であった。



定時制、通信教育開校（昭和23年）



定時制の給食

縣立中等校を統合

新制高校原則案を審議

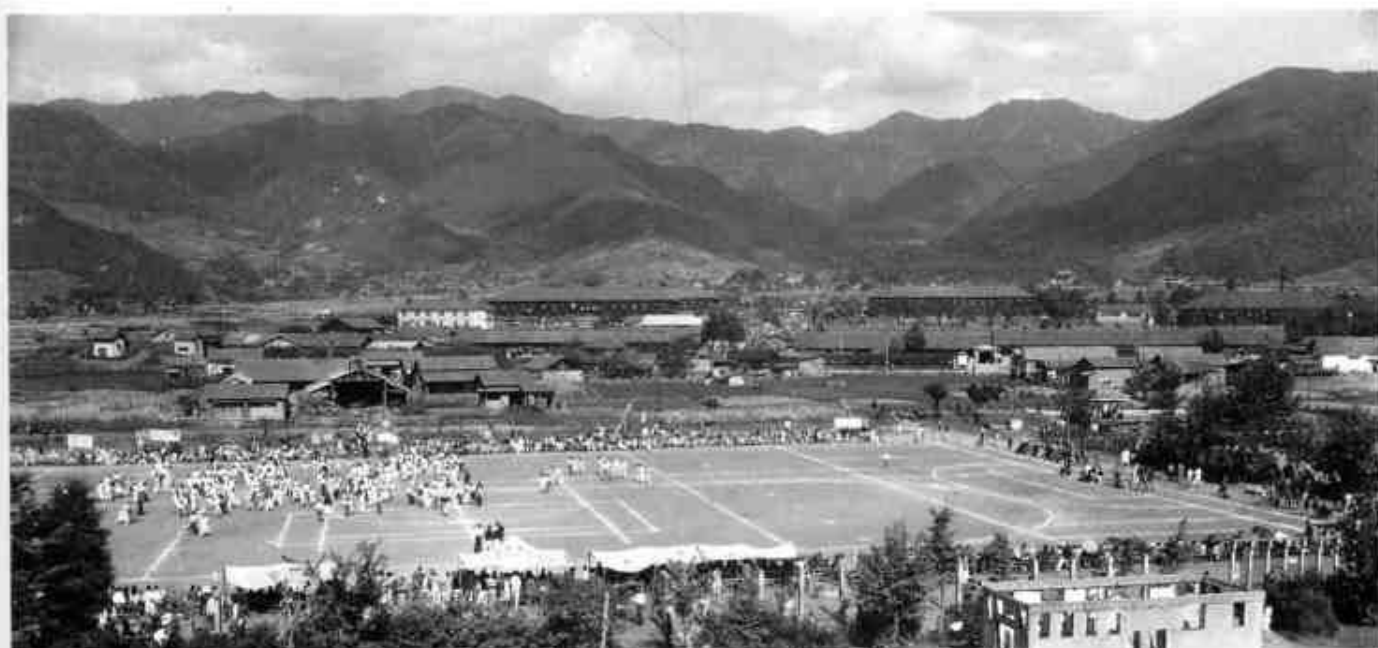
使用者を教育

陳惠猷紀念

新開校設置委員は十四日、校への財政員体にするものとする。午後一時から縣教育部長室が開かれ、至つた。是月大まにはれ、前朝新聞に記して、原則委員長の審判室を決定して、追加案について各所に差支する者で、委員として計しされる縣教育ともるが、これによつて設立中學校のじらみ合せて買出し供するものか。昨日、最終に一顧の視が引かれる。本委員より、再行あり、又臨時の委員を助す要と入る。原

使用者を教育
委員会を設置

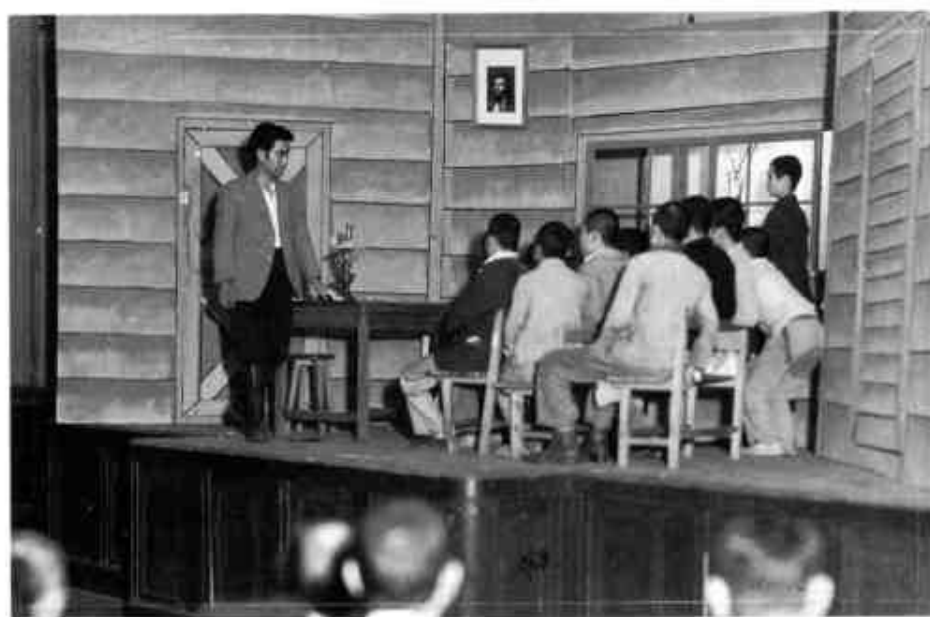
新開運動の難化なる時況を以て、ため騒では諸部使用者の教育施設の改善を期す要と入る。原



戦後初の大運動会、グラウンド後方に旧甲府連隊の兵舎がみえる



運動会の演技



文化祭のはじまり

新校歌制定
(昭和23年)



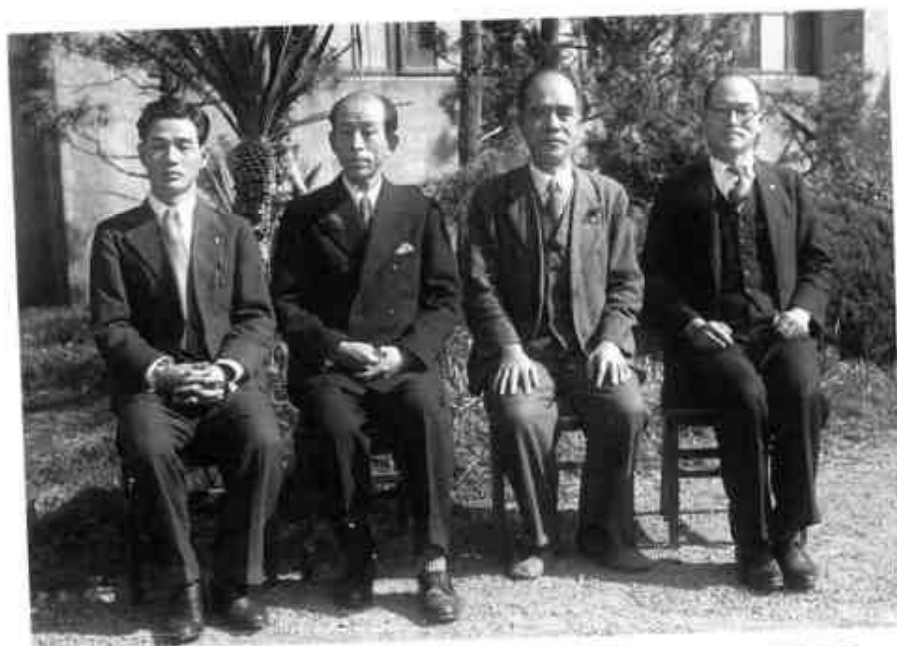
校歌発表会で作曲者小松清のあいさつ



校歌選者飯田蛇笏



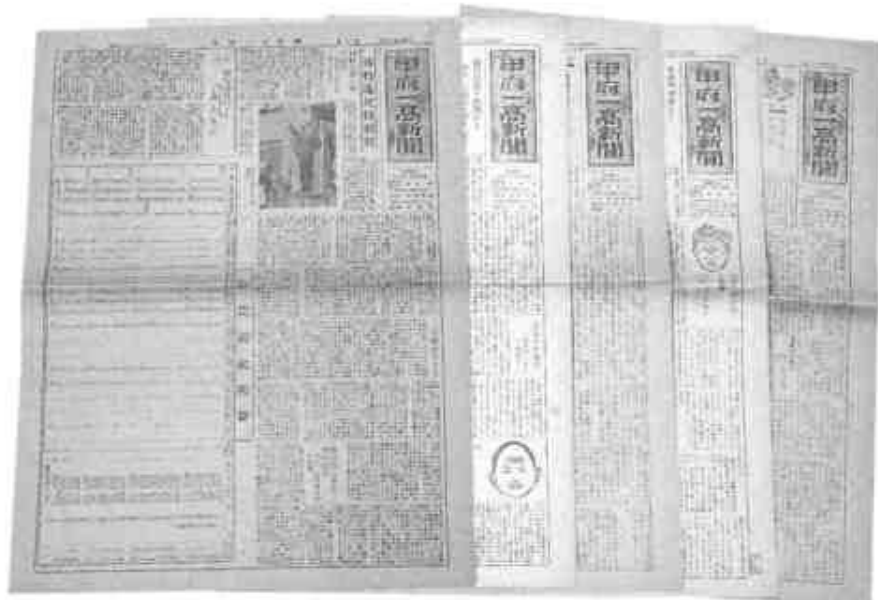
ピアノ安部和子(左)、
独唱浅野鶴子



左から作詩者上條馨、作曲者小松清、校長近藤兵庫、三井純清教諭



校章制定（昭和23年）



甲府一高新聞、創刊は昭和23年

書收領知告入納									
学年	月	日	科目	単元	冊数	金額	備考	領収書	印
昭和23年	10	10	国語	現代文	1	100			
昭和23年	10	10	英語	文法	1	100			
昭和23年	10	10	数学	代数	1	100			
昭和23年	10	10	物理	力学	1	100			
昭和23年	10	10	化学	無機	1	100			
昭和23年	10	10	生物	植物	1	100			
昭和23年	10	10	地学	地理	1	100			
昭和23年	10	10	歴史	日本史	1	100			
昭和23年	10	10	社会	政治	1	100			
昭和23年	10	10	体育	球技	1	100			
昭和23年	10	10	音楽	唱歌	1	100			
昭和23年	10	10	美術	図画	1	100			
昭和23年	10	10	保健	衛生	1	100			
昭和23年	10	10	家庭	生活	1	100			
昭和23年	10	10	外国語	英語	1	100			
昭和23年	10	10	総合	総合	1	100			
昭和23年	10	10	その他	その他	1	100			
昭和23年	10	10	合計			1000			

一、金貳千四百圓也
右金額を七割に分割して課本費庫へ納入せられたり
昭和二十五年四月一日
山梨県立甲府高等学校 校長 林 陽一郎
副校長 佐々木 寛

授業料領収書



生徒会誌「日新鐘」



団体対抗水上競技大会、新制高校の部優勝（昭和23年8月、増穂プール）



生徒会総会



生徒会役員立候補許可証



演劇部発表会



中等野球、春のリーグ戦優勝（昭和23年）



ラグビー部発行のカレンダー



創立70周年記念(昭和25年)



記念誌

創立70周年記念祭アーチ (昭和25年)



音楽部研究発表会プログラム



記念カーニバル街頭へ

男女共学実施（昭和25年）



女子生徒夏服



初の女生徒入学



修学旅行のしおり



男女共学第1回生



山梨県高等学校総合体育大会で連続優勝（昭和24・25・26年）



広島国体で、サッカー第3位（昭和26年）



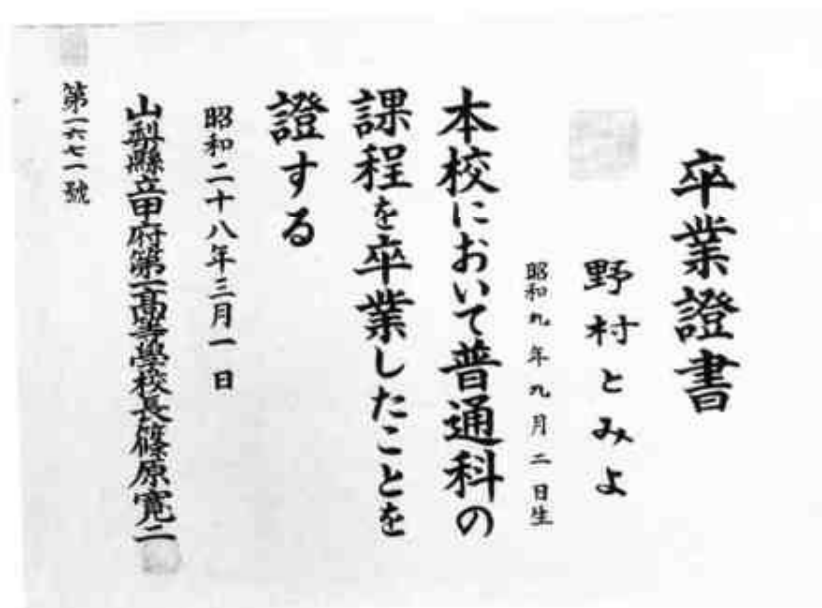
北海道国体で、サッカー準優勝（昭和29年）



弓道復活



庭球部、全日本大会第3位（昭和24年）



女子生徒、第一回卒業生の証書



御崎神社から学校を望む（昭和24年頃）



木造2階建ての新校舎落成



戦後野球再開当時、優勝記念



読売巨人軍へ入団した、内藤博選手（左）



日本学生野球協会結成記念大会優勝ペナント



日本学生野球協会結成記念大会で優勝（昭和27年明治神宮球場）



体育館落成（昭和30年）



体育館内部



体育館玄関



音楽館落成（昭和28年）



航空写真（昭和30年）



図書館の地鎮祭（上）と、工事中の図書館



図書館全景



新装なった図書館内部

創立80周年記念(昭和35年)



創立80周年記念祭



石橋湛山創立80周年記念名誉会長



慰霊祭



カーニバル校門を出発



ブラスバンド演奏会

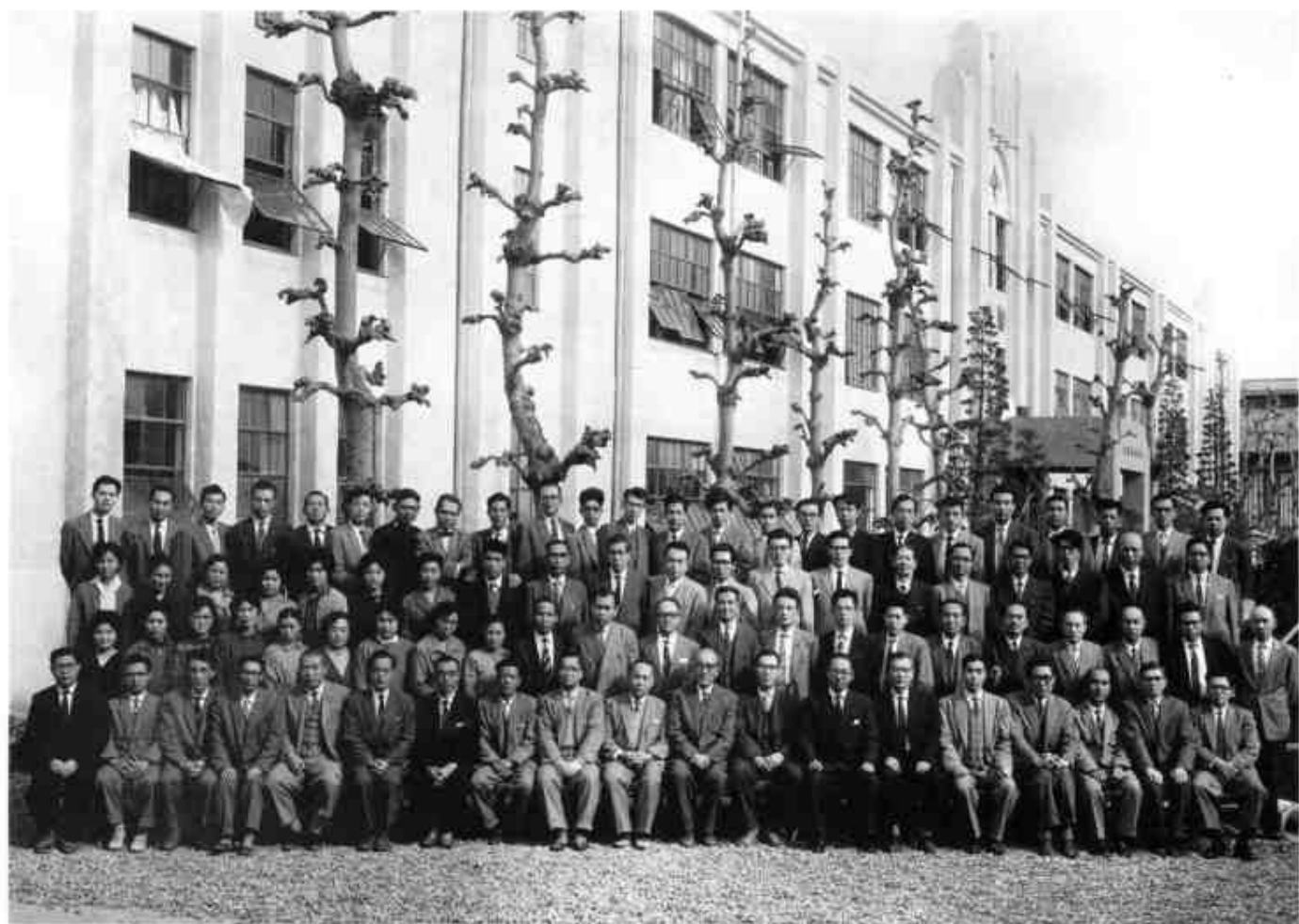


記念運動会



カーニバル市中進行





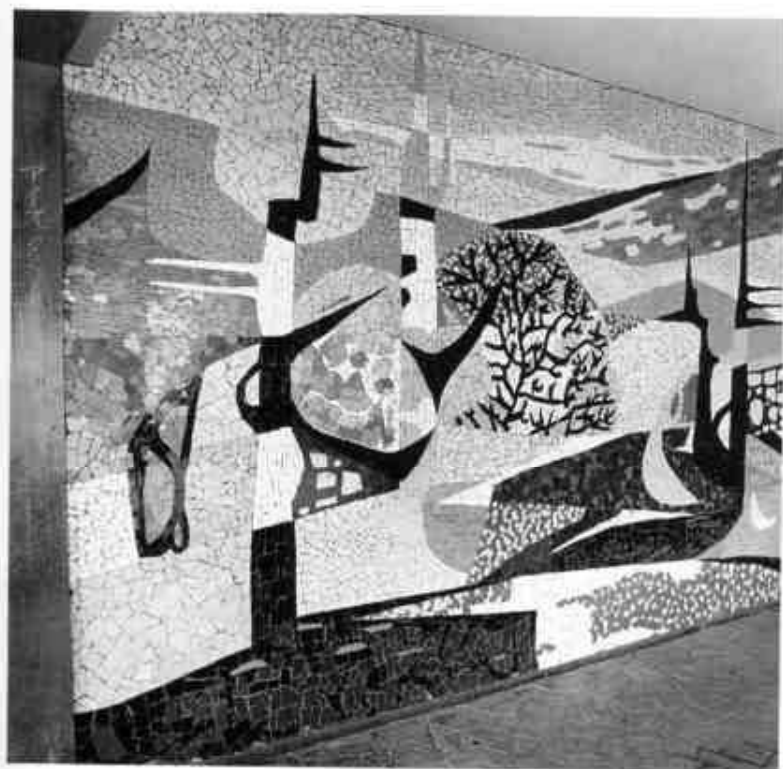
創立80周年記念当時の職員一同



記念祝賀会



創立80周年記念事業として日新ホールが完成（昭36年3月）



日新ホールのモザイク壁画



日新文庫（左）と大島文庫

生徒会のクラブ活動



文化祭のアーチ（昭和38年）



文化祭を合理化しようという声明板（昭和37年）



生徒会総会



総合体育大会の入場行進



滑空部のグライダー（昭和34年）



応援団吹奏楽部定期演奏会



26年ぶり 2度目の甲子園出場（昭和36年8月）



甲子園出場記念メダル



昭和36年7月31日、熱戦の末、甲工を7対6でくだし優勝



東京オリンピック聖火ランナーの山本順二(右)と高柳幸夫



大島正健先生彰徳碑除幕式 1965.10.23

大島正健先生彰徳碑除幕式（昭和40年10月）



思い出の卒業式

第56回の卒業生は、終戦、戦後のどさくさで卒業式は出来なかった。

昭和54年2月24日、思い出の卒業式を開いた。



恩師の受け付け



卒業時の恩師を招いて



高遠啓一元校長の式辞



清水八東同窓会長の祝辞



校歌をなつかしくうたう

創立90周年記念(昭和45年)



創立90周年記念式典



工学博士神津幸直氏の記念講演



デュークエイセスの記念公演



創立90周年記念文化祭



美術展覧会



創立90周年記念、プラスバンド定期演奏会



工事中の新校舎



新校舎地鎮祭で玉串をささげる生徒代表



上棟式祝賀会であいさつをする田辺県知事



新校舎北館全景

創立100周年記念(昭和55年)



創立百周年記念式典、講演会、美術展会場となった山梨県民会館（昭和55年10月22日）



来賓を迎える



式典案内



来賓、受賞者受付所



PTA、一般会員受付所



創立百周年記念式典



岩波校長式辞



高遠啓一元校長祝辞



来賓祝辞



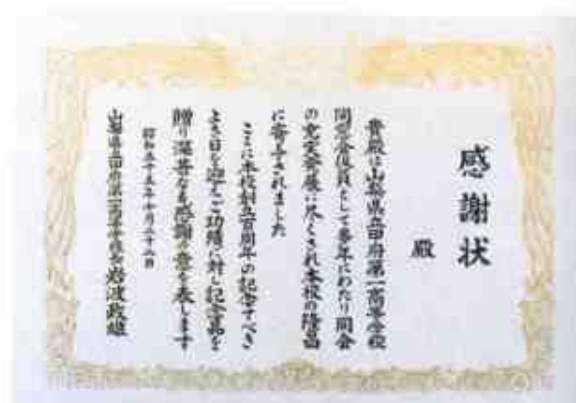
来賓祝辞



創立百周年記念教職員一同（昭和55年）



記念式典幹事席



感謝状



功労者表彰式

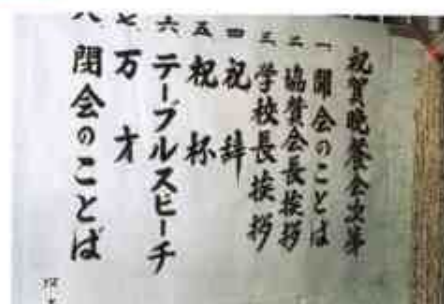


記念品

創立100周年祝賀晩餐会



晩餐会受付



会員券(上)と会次第



来賓祝辞



来賓祝辞



望月幸明山梨県知事の祝辞



来賓祝辞



百周年を祝って乾杯



級友たちと旧交を温める。



フルートとハープの記念演奏

100周年祝



酔うほどに童心にかえって



恩師をかこんで



なごやかに恩師らとの語らい



百周年のしおりに、見入る会員



中田大三神戸電鉄（株）社長の講演会



甲中時代の中田大三捕手



雨にたたられた、静岡高校との招待野球大会（百周年記念）



山梨県立甲府中学校跡の碑



除 幕



除幕を終え一同拍手



清水八束同窓会長のあいさつ



創立百周年記念美術展



美術展招待者受付



美術展覧会場のテープカット



絵画に見入る在校生



同窓会、在校生の出品作品は80点を超えた

創立100周年記念テニス大会



岩波校長のあいさつ



審判長から試合上の注意を聞く同窓生



熱戦を展開



清水八束同窓会長より賞品授与



バリトン歌手、平野忠彦の独唱（昭和31年卒）



ソプラノ歌手林ひろみ（昭和33年）と平野忠彦



小池松寿のピアノ演奏（昭和31年卒）



浅川豊夫のピアノ演奏（昭和30年卒）



音楽会のクライマックス、フィナーレで、4人が手をつなぎ合って、会場の声援にこたえた。

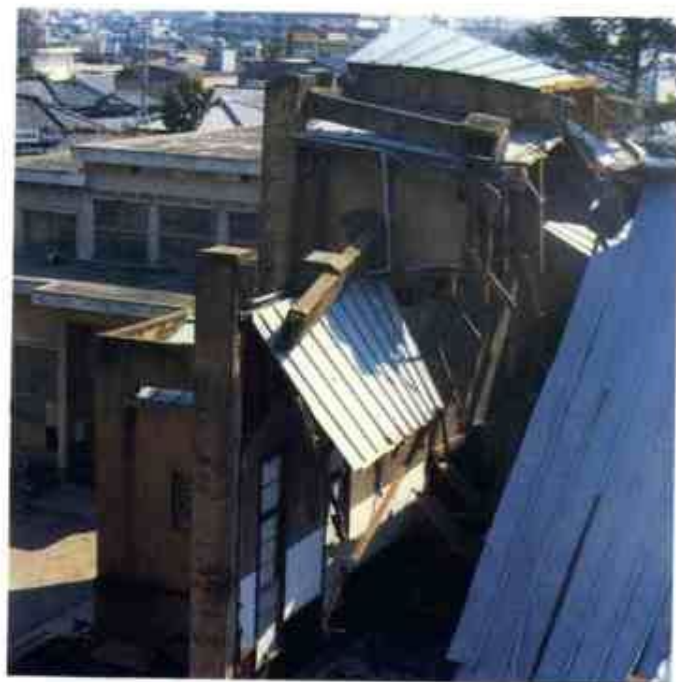


卒業生の歌手、ピアニストを招いた音楽会は盛大であった。左から、小池、平野、浅川、林の各氏

50年の風雪に耐えた講堂から「百周年記念館」へ



時計台がついていた講堂



消えていく講堂



講堂の解体作業



百周年記念館地鎮祭



百周年記念館竣工に向けて、清水同窓会長のあいさつ



進む百周年記念館の工事

百周年記念館竣工（昭和56年）



新装なった百周年記念館



竣工記念式受付

百周年記念館竣工式



飯島同窓会副会長のあいさつ



岩波校長の百周年記念館竣工式式辞



清水八束同窓会長あいさつ



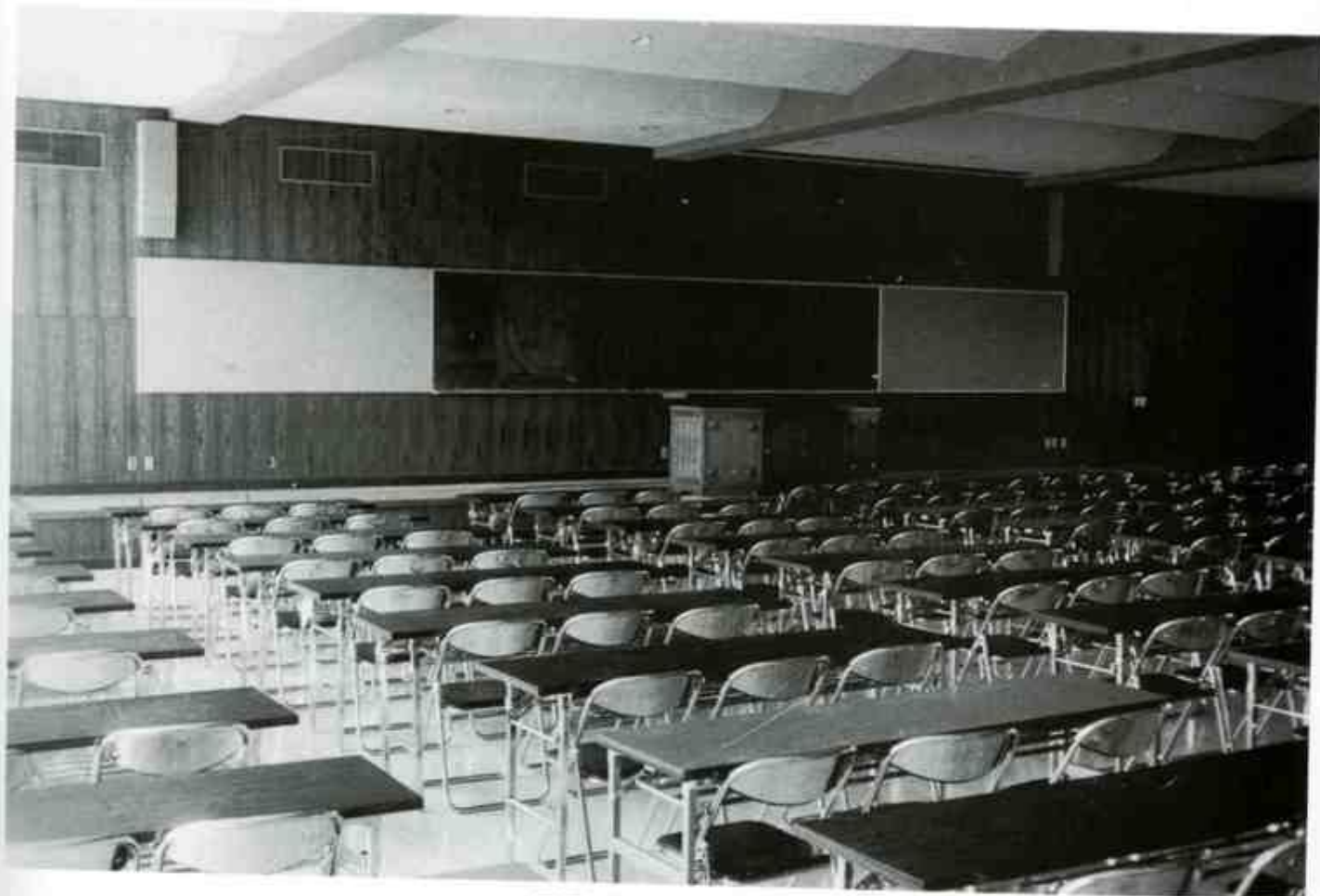
水上達三東京同窓会長あいさつ



功労者表彰式



校歌斉唱



百周年記念館の内部



百周年記念館の内部

栄光のかずかず



強 行 遠 足



伝統を誇る甲府第一高等学校の強行遠足は、本校創立百周年記念強行遠足(昭和55年・1980)で55回目を迎えた。

その起源をたどると、大正13年(1924)の秋、文部省は、全国の各中学校に、11月3日(明治節・明治天皇誕生日)を記念して「全国体育日」と定め、体育的学校行事を行うことを通達した。

その趣旨は、一部選手のスポーツ体育ではなく、全校生徒が容易にできる運動を行う、ということであった。

本校では、ときの校長江口俊博先生の提唱で、「歩く」ということは、人間にとり最も自然的な健康法であるとして、長距離を歩くことを決め、実施したのがはじまりである。

先生は大正12年に、甲府中学校に赴任したが、この年は関東大震災の起きた年で、東京

の人たちが電車に乗りなれていて、この災害で突然に足を奪われ、苦勞していることを聞かされ、當日ごろから、自ら歩くことを実践していた。

第1回の強行遠足は、大正13年(1924)11月4日、全国体育日の翌日、「遠足運動」と名づけて実施された。行き先は、生徒の脚力に応じ、差出の磯(山梨市)・御岳金桜神社(甲府市)・新府城跡(韮崎市)の各往復。それに中央線沿いを東京に向け、行ける所まで歩く、という4コースが定められ、全校生徒が参加した。

その後、松本方面・木曽福島松本方面・信濃大町方面・小諸方面とコースが変更され現在に至っている。

昭和52年、同窓会主催の「親睦強歩大会」が行われ、先輩たちが、懐かしい思い出のコースで健脚を競った。



講堂前で出発を待つ生徒たち、足こしらえは、ゲートルにわらじ履きで杖を持つ生徒もいた。
(第21回、昭和21年10月29日、正午出発)



強行遠足用提灯



強行遠足を記録した帳簿（大正13・14年欠）



大正13年、第1回強行遠足の新府方面コース



第1回強行遠足御岳金桜神社コース



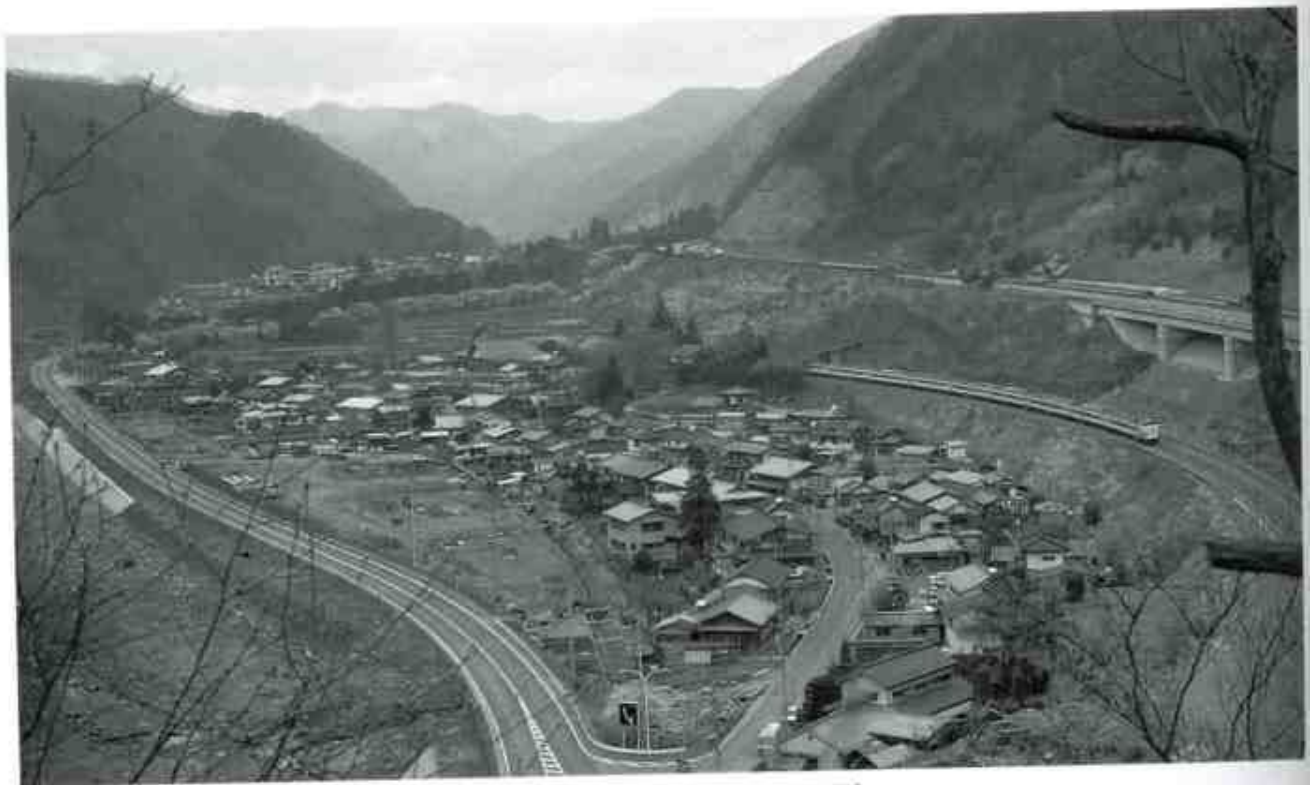
甲州街道大和村駒飼宿の遠望



猿 橋



笹子トンネル（旧道）



甲州街道白野宿（大月市提供）



第2・3回は松本方面がコースとなった



塩尻峠から諏訪湖を望む



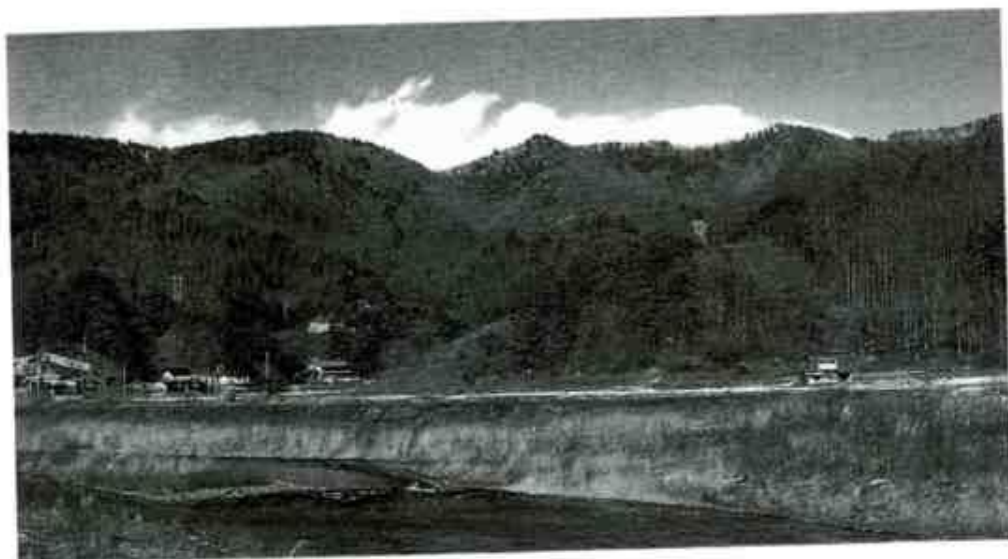
第4・5回は木曾福島、松本方面がコースとなった
賢川関所付近の木曾街道



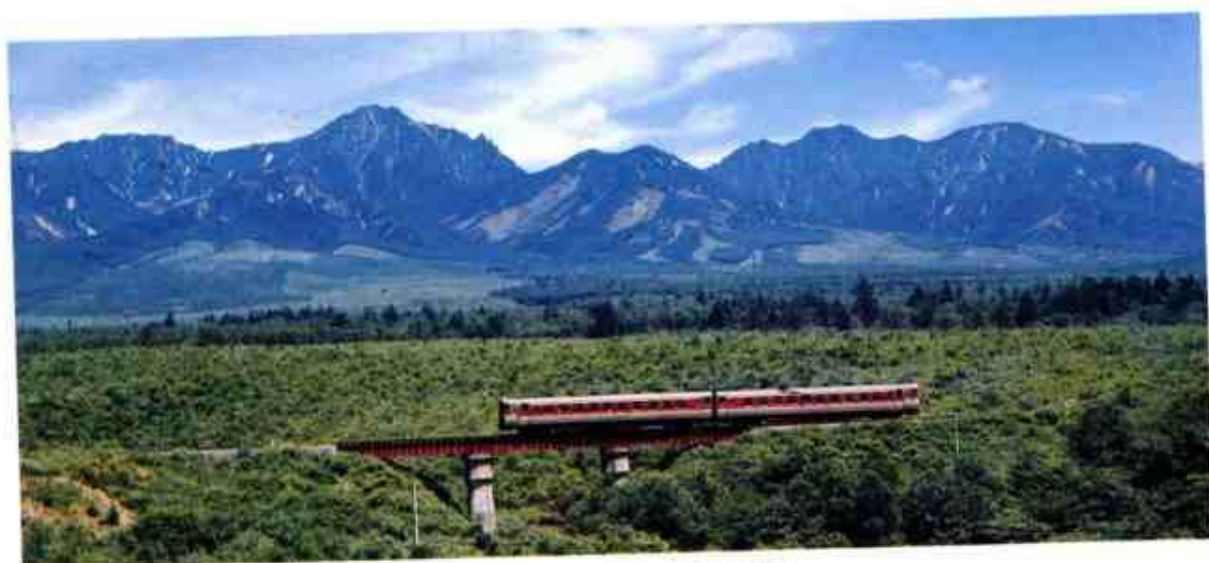
台ヶ原宿（白州町）



葛木宿（長野県）



佐久往還の海ノ口付近

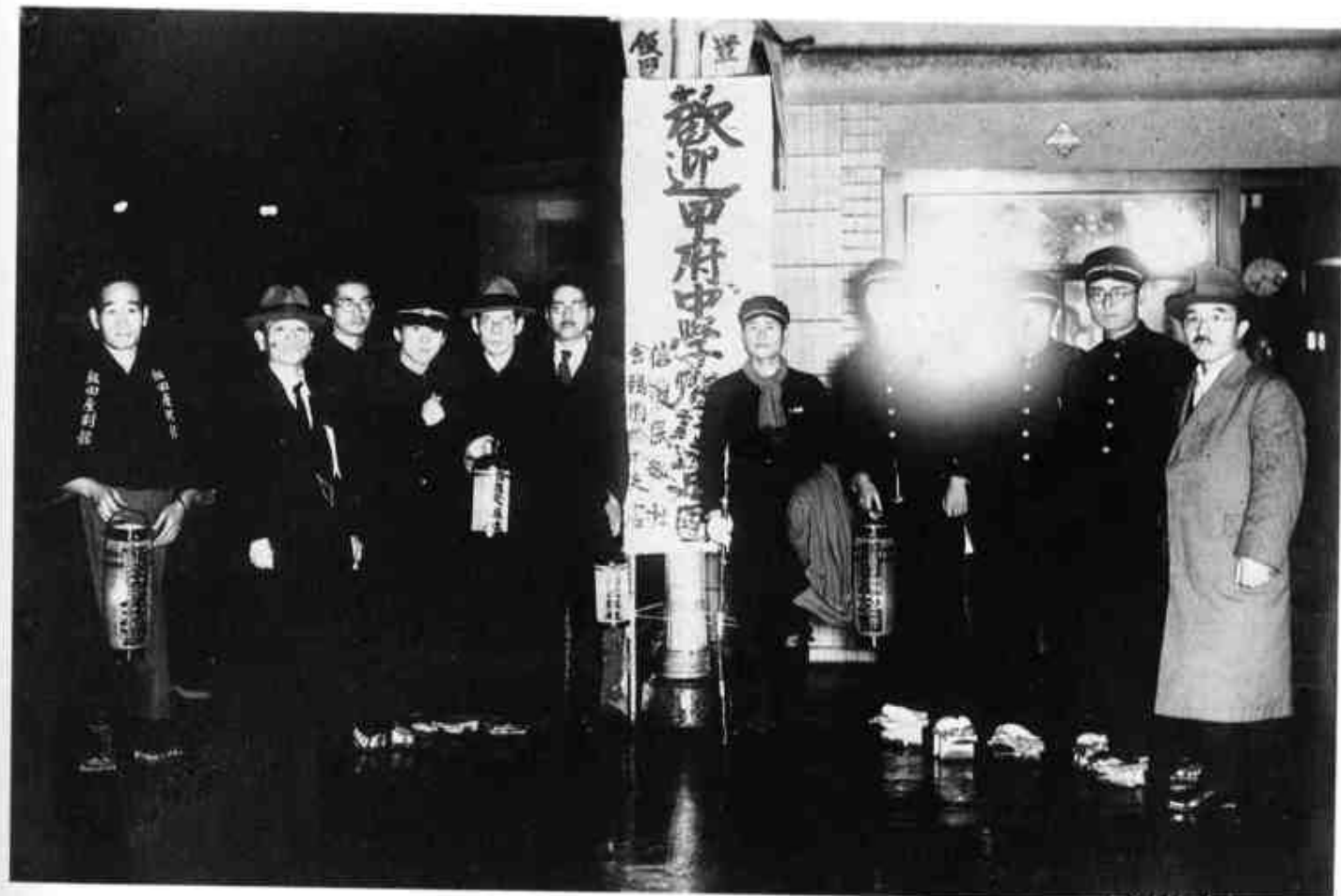


清里、野辺山間を走る小海線



小諸城跡の懐古園





第13回遠足で、松本到着第一位を果たした大代千治（中央・昭和11年11月4日）



松本到着一行、伊藤忠一（左端）、小尾鳩三（右端）先生らの出迎えをうける（昭和11年11月5日）



松本飯田屋旅館の検印所前で（昭和18年）



マフラーや、から草の風呂敷が印象的



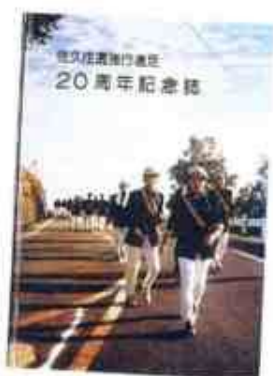
麦湯にのどをうるおして（小野～辰野）



柿が鈴成りの長野県葛木宿



創立70周年記念強行遠足、女生徒も参加して、韮崎市穴山橋付近で（昭和25年）



強行遠足の記念誌



わらじとゲートル



強行遠足の優秀賞、参加賞

創立100周年記念強行遠足



岩波校長の出発号砲



清水同窓会長のあいさつ



校庭に座って、諸注意をきく参加生徒



国道141号線をひたすら北へ



三岡検印所で湯茶の接待を受けて



女子完走者、終点小海到着

親睦強歩大会（昭和52年11月3日）



校門より壮年組から出発



出発寸前の最終打ち合わせ（午前5時30分）



事前打ち合わせ（NHKと共に）



開会式、午前8時校庭より出発



号砲の轟く中を出発



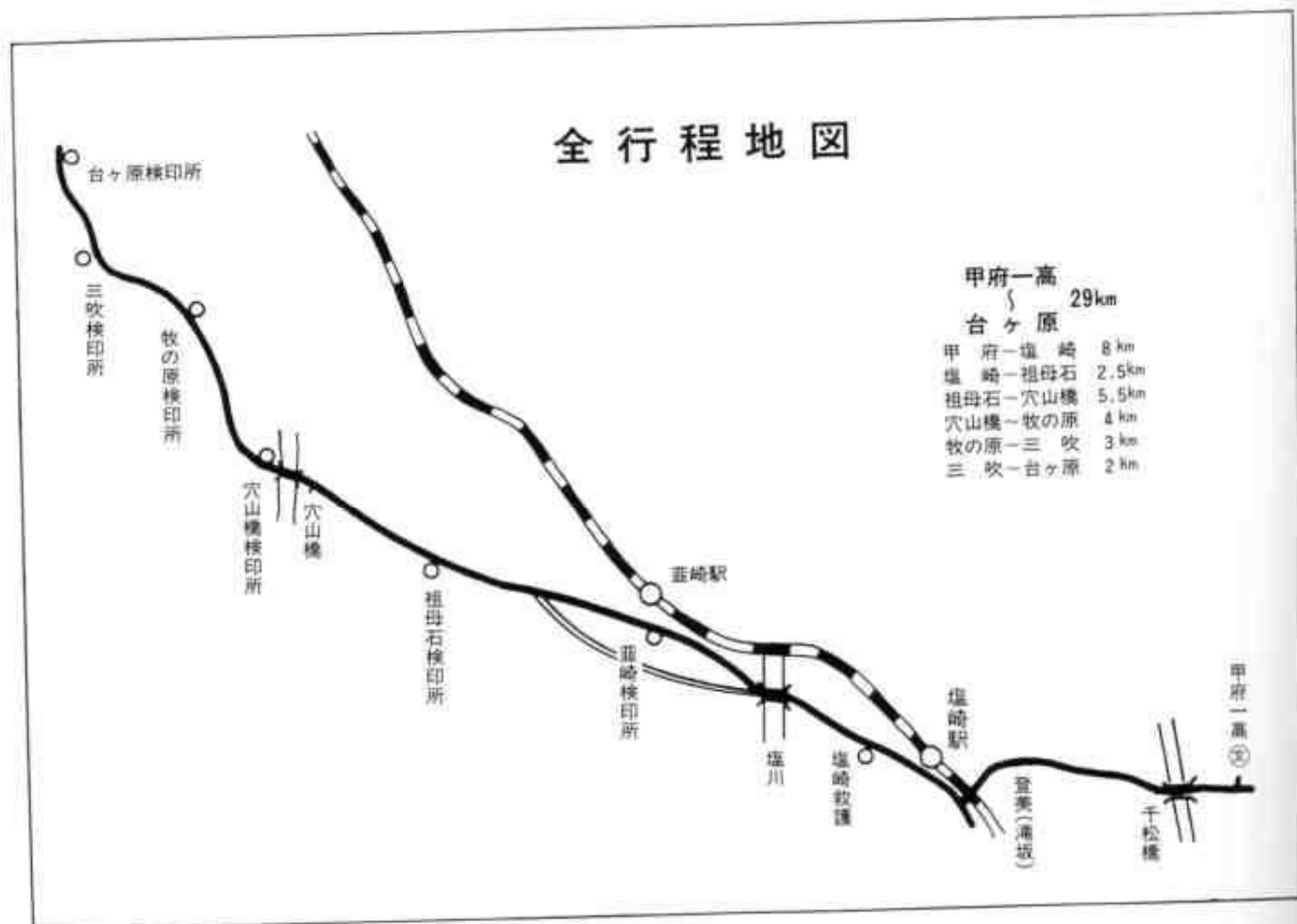
胸のゼッケン（通過ごとに恩師からスタンプを押される）



途中の検印場所で（恩師と同級生）



途中検印場所で恩師にスタンプを押される





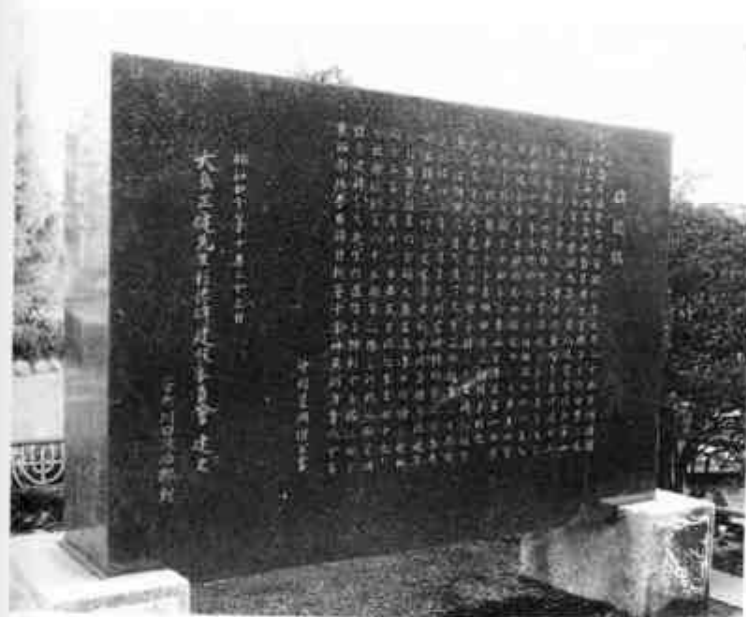
校舎全景

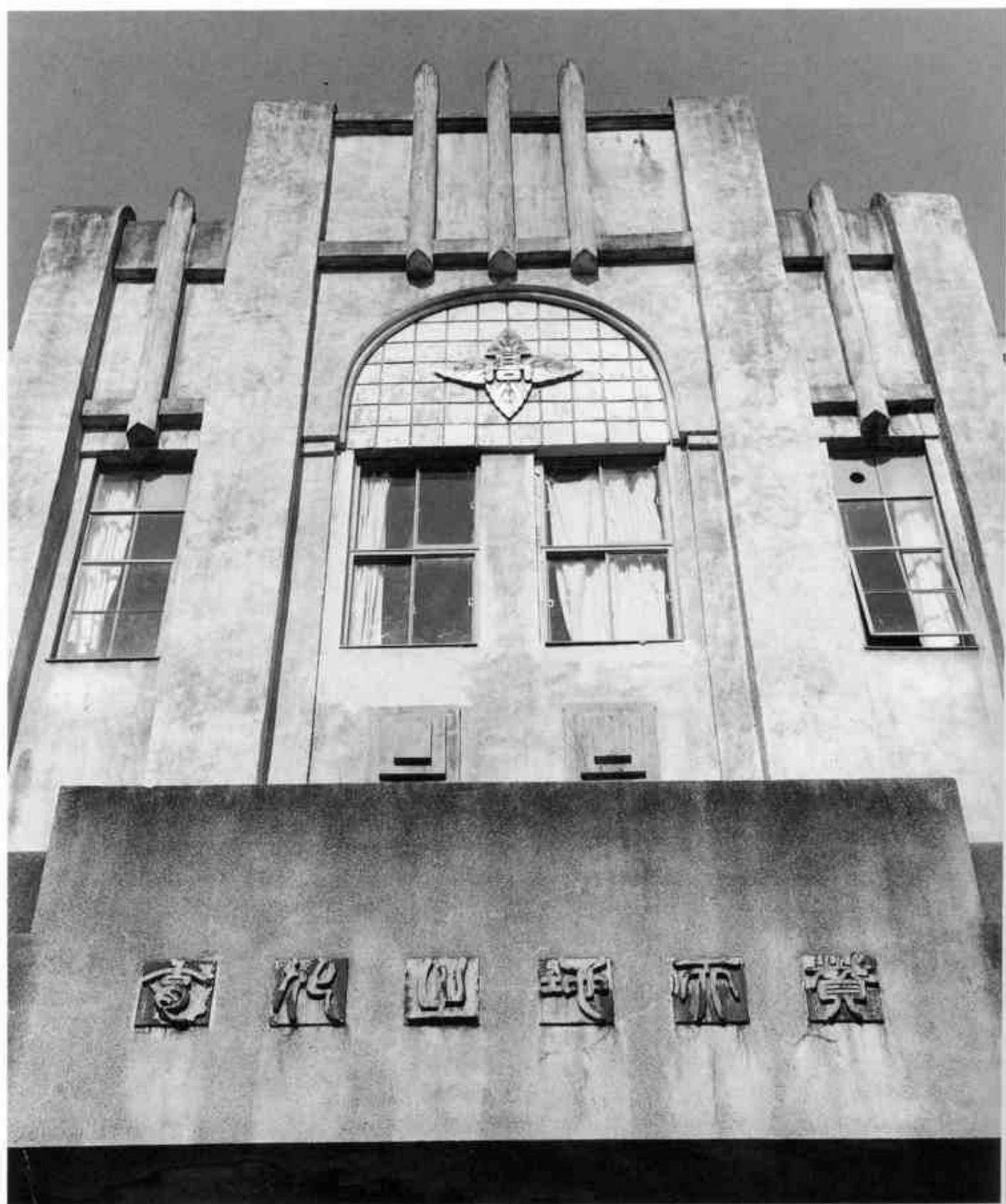


百周年記念館



大島正健先生彰德碑 大島正健





贊天地之化育

山梨縣立甲府中學校 校歌

三井甲之作詞
東京高等音樂學院 作曲

♩ = 92



1. わ れ ら は に ほ ん に 生 ま れ た ー り か
2. や ま ー と し ま ね に や ま り め ぐ ー る 甲
3. お ほ ー う な ば ら の 搖 り や ま ー ん な

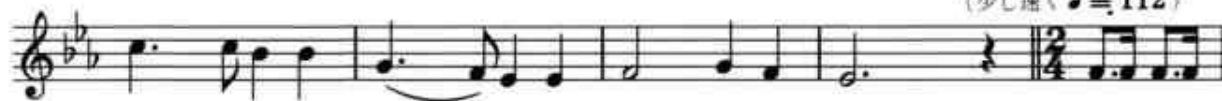


み ー の 御 代 より ひ と す ち ー の こ
斐 ー の く に あ り み と ぎ よ ー き き
み を も か ぜ を も し の ぎ つ ー つ ま



う と う い た ー だ ー く わ が く に ー に 生
う ど の れ き ー ー し か へ り み ー よ わ
も ー れ み く ー に ー を も ろ と も ー に こ

(少し速く ♩ = 112)



ま れ し こ と ー の う れ し さ よ み く に の
れ ら の つ と ー め か ろ し か ら ず 見 よ や ー
く み ん こ ぞ り て く に の た め う ー ま ず



さ か え は あ め つ ち と とも に ー き は ま り な か る べ し り
み な み に 富 士 ケ 嶺 と ー の の し ず め と そ び え た り
ひ る ま ず た ち ろ が と は ず す す む ぞ や ま と ー ご こ ろ な

山梨縣立

甲府中學校 校歌

三井甲之作詞
東京高等音樂學院 作曲

一、我等は日本に生れたり

神の御代より一系の

皇統戴く我國に

生れしことのうれしさよ

皇國の榮えは天地と

共に窮りなかるべし

二、大和島根に山めぐる

甲斐の國あり水清き

郷土の歴史顧みよ

我等の務め輕からず

見よや南に富士ヶ嶺は

皇國の鎮めと聳えたり

三、大海原の搖りやまぬ

波をも風をも凌ぎつつ

護れ皇國を諸共に

國民舉りて國のため

撓まず萎縮まず辟易がず

進むぞ大和ごころなる

山梨県立甲府第一高等学校 校歌

荘厳に (♩ = 84)

上 條 馨 作詞
小 松 清 作曲



1. 甲 斐 の く に み な か に 建 ち て
2. 日 に あ ら た ま た 日 に あ ら た
3. そ び え 立 つ ふ よ う の た か ね



い に し へ ゆ 雄 ご こ ろ つ た へ
い や た か き の ゴ み を も ち へ
き よ き か な 甲 斐 の や ま か は



あ た ら し き 世 の か が み と し つ
ま こ と な る こ と わ り き は め は
も ろ と も に た ま と み が き て た



と め て む この ま な び や に
げ み な う か ど わ れ ら
す く べ し て ん ち の く い く

山梨県立甲府第一

高等学校 校歌

上 條 馨 作詞
小 松 清 作曲

一、甲斐の國 み中に建ちて

古へゆ 雄心傳へ

新しき 世の鑑とし

勉めてむ この學舎に

二、日に新た また日に新た

彌高き のぞみをもちて

眞なる 理究め

勵みなむ 若人我等

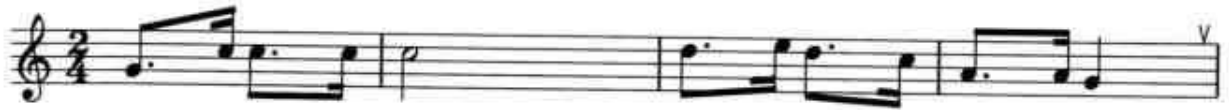
三、聳え立つ 芙蓉の高根

清き哉 甲斐の山川

もろともに 玉と磨きて

賛くべし 天地の化育

応援歌「鶴城に」



か くじょう う に さ くら ぼ な 咲き
と き来 た る け んじ の む ねに



ひ と は み な か んら く に 酔ふ
つ よ き 意 ー 気 う ちゅう も む なし



わ れ ひ と ー り ら っか を 浴 びて ま へ の
桜 花 の は ー た ひ とた び 振 れば し こ の



は ー じ か えん に 泣 き ぬ
む ー れ み じん に 飛 ば む



ヤッ ツケロ ヤッ ツケロ ヤッ ツケヤッ ツケ ヤッ ツケロ

応援歌

鶴城に

一、鶴城に桜花咲き

人は皆歡樂に酔ふ

われ一人落花を浴びて

前の恥花園に泣きぬ

二、秋来る健児の胸に

強き意気宇宙も空し

桜花の旗ひとたび振れば

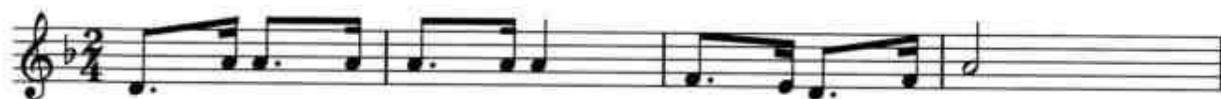
醜の群れ微塵に飛ばむ

ヤッツケロ ヤッツケロ

ヤッツケ ヤッツケ

ヤッツケロ

応援歌「希望の光」



1. き ばう の ひ かり 身 に 浴 び て
2. て きぐ ん 如 何に た けく と も
3. 見 よきゅ う て んの く もは 垂 れ



わ かう と の 意 気 一 負 う て 立 つ
し ーの び 伏 せ た る あ づ さ ゆ み
は けん を に ぎ る は い ま な る ぞ



い ま せ ん しゅ らの か ど い で を
き た へ し か ひ な 引 き し で り
か う り う の 意 気 む ね に 秘 め



そ て ら も と どろ に こ た ふ ら ん
て い き ぎ の が ぶ と を 射 落 と さ ん しゅ
い ざ や 起 て 起 て

応援歌

希望の光

一、希望の光 身に浴びて

若人の意気負うて立つ

いま選手等の門出を

空もとどろに 応ふらん

二、敵軍いかに 猛くとも

忍び伏せたる梓弓

鍛えし腕引きしぼり

敵のかぶとを 射落さん

三、見よ穹天の 雲は垂れ

霸権を握るは今なるぞ

蛟竜の意気胸に秘め

いざや起て起て わが選手

応援歌「起て起て起て 健男児」



起 て 起 て 起 て ー ー 起 ー て け ん だ ん じ ー 覇
 気 ー ある けん じ よ ー ー じ き ょ う の た て
 を ー ば 振 り か ざ し ー 破 邪 の つ る ぎ ー 取
 り て 起 て ー 撃 て (や) 懲 ら せ や
 わ れ ら が て き を 撃 ち て ゆ う し を
 せ かい に し め す ー は こ の と き ぞ
 ー フレー フレー 甲 ー 中 (一高)

応援歌
 起て起て起て
 健男児

起て起て起て健男児
 覇気ある健児よ
 自彊の盾をば振りかざし
 破邪の剣とりて起て
 撃てや懲らせや
 われらが敵を
 撃ちて勇姿を
 世界に示すはこの秋ぞ
 フレー フレー 甲中 (一高)

応援歌「起て撃て勝て」

起 て 撃 て 勝 て ー こう ふ いち こう いち こう その

名 ぞ わ が ぼ こ う あ お ぐ ふ よ う の

み ね さ や か きゅう て ん ま さ に

と どろ か ん 見 よ せい ー え い の つ ど え る を

む す べ る ま ゆ に ひ っ しょう の ち か

い は か た し わ れ ら が せい え い おい

応援歌

起て撃て勝て

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校

仰ぐ芙蓉の峰さやか

穹天まさに轟かむ

見よ精鋭の集へるを

結べる眉に必勝の

誓ひは固しわれらが精鋭

おお

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校

写真集 百年のあゆみ編集委員

編集委員長 太田源一郎

庶務係 内藤博務

委員 小木曾四郎・梶原千治・岩波政雄
・大塚篤郎・望月政廣・井上雅雄
・野村とみよ・飯田祥雄・小宮山梓
・望月政男・小沢 登

あ と が き

いくつかの紆余曲折を経て、ここに写真集『百年の歩み』が上梓の運びとなりましたことは喜びにたえません。お寄せいただいた会員各位のご協力にあつく御礼申し上げます。

百年を越える年月の記録であるだけに、その資料の収集は困難を極めました。ある年度の資料は豊富に、ある年度の資料は皆無といった状況で、それなりの配意と努力はいたしましたが、如何にせん各年次をくまなくとはまいりませんでした。また原画があったにしても、それが書籍内の印刷によるものであったり、複写のまた複写といったものであったり、鮮明度をいちじるしく欠くものもありますが、他に得ることの出来ない貴重な資料でしたので、あえて掲載いたしました。

このように満足し得ぬ点も多く見られますが、本誌が母校発展の礎石となり、さらに会員各位の過ぎ去った青春時代へのいざないとなり、懐かしい思い出をたぐる絆となれば幸甚です。

なお、サンニチ印刷の小島勇、武田範正両氏に非常なご苦勞をおかけしたことを報告すると共に、あつく感謝いたします。

(望月政廣記)

写真集 百年のあゆみ

平成3年5月11日 印刷

平成3年5月21日 発行

編集 山梨県立甲府第一高等学校同窓会
山梨県甲府市美咲二丁目13番44号

発行 山梨県立甲府第一高等学校同窓会

電話 (0552) 53-3525

印刷 (株) サニチ印刷



日新鐘

